

2024年5月20日

## 第5回高齢社会対策大綱の策定のための検討会への発言

若宮構成員

高齢社会対策に資する研究開発の推進のための方策にて高齢者の難聴対策のための方策を取り上げていただけ感謝しております。さらに、下記ご検討をお願い致します。

### ・高齢者に心身の自立を促す

緊急事態その他、周囲が世話をできないことも多い。有事の際も「自分のアタマで考えて行動する習慣を身に着けるように仕向ける」ことが重要。

### ・難聴者の早期発見について

スマホでシロウトが使える役所としての「難聴発見・診断アプリ」を用意していただきたい。それにより「要受診者」が医療機関を受診することが可能。

更に、専門医・専門保健師不在の地域でも「要受診者」が一括して受診しやすくすることが可能と思われるため。

なお、良い補聴器は高価で年金生活者には負担が大きいため経済的支援についてもご検討願いたい。

### ・介護について

現在のような「人力による介護」から「非人力介護」に移行させる必要があると思われる。それに必要な器具・機器等の開発について、スタートアップ企業からアイデアを募集する。

更に家電メーカーに多様なユニバーサル家電の開発を考えてもらうことも重要と思われる。

### ・高齢者教育について

カリキュラムを抜本的に改訂し「理系」「テクノロジー・デジタル」等を重視した内容にシフトしていくべきと思う。教材を用意し（従来の教育は操作手順等に落とし込んだ教育になりがち）、「テクノロジー・デジタル」の本質的な意味や意義を学んでいただくことが重要と思われる。

以上